



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アールシーコア

コード番号 7837 URL <https://www.rccore.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 二木 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務責任者 (氏名) 鎌田 大樹 TEL 03-5990-4070

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 有 (上記の当社URLにて本日から動画配信いたします)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	6,723	△10.1	174	—	163	—	2,969	—
2023年3月期第2四半期	7,481	△9.0	△420	—	△405	—	△415	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 2,994百万円 (—%) 2023年3月期第2四半期 △418百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	700.07	—
2023年3月期第2四半期	△98.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	9,103	3,877	42.6	914.01
2023年3月期	11,195	881	7.9	207.92

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 3,877百万円 2023年3月期 881百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	△13.9	△550	—	△570	—	2,300	—	542.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	4,536,400株	2023年3月期	4,536,400株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	294,370株	2023年3月期	295,670株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	4,241,440株	2023年3月期2Q	4,216,791株

（注）期末自己株式数には、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式（2024年3月期2Q 294,138株）が含まれております。また、株式給付信託口及び役員株式給付信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2024年3月期2Q 294,728株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象など	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11
(1) 受注及び販売の実績	11
(2) 代表取締役の異動	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが「5類感染症」に移行したことに伴う社会活動及び経済活動の正常化が進み、雇用や所得環境が改善するなど、国内景気は緩やかに回復の動きがみられました。しかしながら、急激な円高及びエネルギーコストや原材料の高騰による物価高の消費への影響、世界的な金融引締めによる景気動向、さらにウクライナやパレスチナ情勢など、景気の先行きは不透明な状況が続くものとみております。

住宅市場は、ここ数カ月において新設住宅着工戸数は弱含みとなっており、賃貸住宅は横ばいであるものの、持家の着工数は引き続き減少傾向にあり、予断を許さない状況にあります。

このような事業環境の下、当社グループでは、BESS事業において原点回帰を掲げ、LOGWAY等での感動を起点としたファンづくりをベースとする農耕型営業を推進するとともに、集客策としてSNS（YouTube、Instagram等）での発信を強化しました。当第2四半期連結累計期間における新規来場数は前年同期比121.9%と伸長し、また、連結契約（受注）高においては、4,917百万円（前年同期比11.6%増）となりました。しかしながら、十分な伸びには至らず、期末契約（受注）残高は7,104百万円と前連結会計年度末比で18.0%減少しており、引き続き契約（受注）増に向けて、集客/営業の両面で注力していきます。具体的には、以下の取り組みを進めております。

- ・新商品の「三角WONDER 間貫けのハコ」を2023年10月21日に販売開始しました。これは、“つながりのある暮らし”をコンセプトに、日本家屋にある縁側を配して、内装には国産杉をふんだんに使用し、外観はアルマジロをモチーフにシンプルで愛嬌のあるかたちをした商品です。それと同時に、BESSのホームページにおいて本商品の紹介に新表現方法を用いるなど、ブランドプロモーションを新たにスタートさせました。本商品につきましては、BESS熊谷にて第1号となるモデルハウスを2023年12月オープン予定で建設中です。
- ・「栖（すみか）ログ」の魅力向上に向け、顧客からの反響を踏まえ、新たな空間提案で顧客の想像力を引き出し、また、遊び心を広げるプランやアイテムを追加しました。
- ・「禁（ふもと）暮らし」に関連し長野県小諸市と移住定住促進を軸とした提携協定を締結しました。なお、小諸市にて宅地販売しておりました「小諸 梅の坂下 FuMoTo」は、第一期全20区画を完売しました。
- ・BtoB事業（特建事業）において、北海道厚沢部町にて「栖ログ」をベースとした保育園留学の寮を株式会社キッチハイクと共同プロデュースすることとなりました。

なお、上記小諸市と厚沢部町は、創意・工夫ある「地域づくり」の優良事例を表彰する国土交通省の令和5年度「地域づくり表彰」受賞団体に選ばれました。

現在BESS MAGMAとして営業している代官山の資産譲渡に係る引渡しは2023年4月25日に完了しました。なお、本譲渡契約上の明渡しは2025年4月であり、それまでの期間は従来通りに営業を継続します。

こうした状況のなか、当社グループの当第2四半期連結累計期間における連結売上高は、6,723百万円と前年同期比10.1%の減少となりましたが、連結営業利益については、前期に実施した商品価格改定に伴う売上総利益率の回復により174百万円（前年同期は420百万円の損失）となりました。以下、連結経常利益が163百万円（同405百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、代官山資産の売却益が大きく寄与して2,969百万円（同415百万円の損失）となっております。

セグメント別の状況は以下の通りであります。

① 直販部門

連結売上高の34.4%（外部顧客売上高ベース）を占める直販部門は、東京都・代官山の「BESS MAGMA」、東京都・昭島の「BESS多摩」及び神奈川県「BESS藤沢」の直営3拠点で、東京・神奈川圏を中心とする顧客との直接の工事元請契約によるBESS企画型住宅等の提供を主要事業としております。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は2,332百万円（前年同期比2.6%減）となり、セグメント利益は295百万円（同130.7%増）となりました。

また、セグメント契約（受注）高は1,616百万円（同1.9%増）となりました。

② 販社部門

連結売上高の27.1%を占める販社部門は、全国の地区販社に対して、BESSブランドと販売システム等を提供するとともに、BESS企画型住宅の部材キット等を供給する事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、2,966百万円（前年同期比12.7%減）となり、セグメント利益は347百万円（前年同期は1百万円の損失）となりました。

また、セグメント契約（受注）高は2,178百万円（同24.8%増）となりました。

③ 株式会社BESSパートナーズ（以下、BP社）

連結売上高の38.5%を占める国内連結子会社グループのBP社は、株式会社BESSパートナーズが運営する千秋（秋田県）、熊谷（埼玉県）、水戸、つくば（茨城県）、富士、浜松（静岡県）、東愛知（愛知県）、糸島（福岡県）、熊本（熊本県）に加え、その連結子会社である株式会社BESS札幌が運営する札幌（北海道）、同じく株式会社BESS岐阜が運営する岐阜（岐阜県）の合計11拠点のBESS LOGWAYによるグループであり、顧客との直接の工事元請契約によるBESS企画型住宅等の提供を主要事業としております。なお、営業の集約化により固定費削減を図るため、不採算拠点となっていた千秋（秋田県）を2023年6月末に、水戸（茨城県）を同年10月末にそれぞれ閉鎖しました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は、2,663百万円（前年同期比9.8%減）となり、セグメント損失は9百万円（前年同期は32百万円の利益）となりました。

また、セグメント契約（受注）高は、1,954百万円（同25.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末比で2,091百万円減少の9,103百万円、負債は同5,087百万円減少の5,226百万円、純資産は同2,995百万円増加の3,877百万円となりました。それぞれの主な増減要因につきましては、次の通りであります。

総資産につきましては、「有形固定資産」が2,734百万円の減少及び「繰延税金資産」が550百万円の減少に対し、「現金及び預金」が1,265百万円増加したこと等によります。

負債につきましては、「短期借入金」が2,894百万円の減少及び「一年以内返済予定長期借入金」が1,392百万円の減少、さらに「仮受金」が705百万円減少したこと等によります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益2,969百万円を計上したこと等によります。その結果、自己資本比率は42.6%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は4,464百万円となり、前連結会計年度末3,199百万円に対し1,265百万円の増加となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは157百万円の支出（前年同期は770百万円の支出）となりました。有形固定資産売却損益4,220百万円などにより税金等調整前四半期純利益4,384百万円が計上されたものの、前受金及び未成工事受入金の減少並びに長期未収入金や売上債権の増加による資金減少要因が、棚卸資産の減少等による資金増加要因を上回ったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは5,773百万円の収入（前年同期は89百万円の支出）となりました。これは、有形固定資産の売却による収入等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは4,374百万円の支出（前年同期は353百万円の収入）となりました。これは短期借入金の減少及び長期借入金の返済等によるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、本日（2023年11月14日）公表いたします「連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象など

当社は、複数の金融機関との間で締結したシンジケート方式による金銭消費貸借契約において、一定の財務制限条項が付されており、前連結会計年度末の財政状態は当該条項に抵触してはいたしましたが、代官山資産の譲渡代金を原資とした借入金の返済につき2023年4月25日をもって実行しており、本件は解消しております。現状において、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,199,386	4,464,734
売掛金及び完成工事未収入金	980,372	1,211,488
リース債権	14,810	12,936
商品	459,376	287,994
貯蔵品	108,268	76,453
仕掛販売用不動産	589,108	471,471
未成工事支出金	158,898	99,742
その他	343,685	226,228
貸倒引当金	△216,288	△233,566
流動資産合計	5,637,618	6,617,483
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,165,327	821,615
その他	2,720,402	2,254,983
減価償却累計額	△1,818,404	△1,743,668
その他（純額）	901,998	511,314
有形固定資産合計	4,067,326	1,332,929
無形固定資産		
その他	20,092	28,180
無形固定資産合計	20,092	28,180
投資その他の資産		
関係会社株式	20,000	20,000
繰延税金資産	610,988	60,088
その他	855,180	1,065,375
貸倒引当金	△15,729	△20,174
投資その他の資産合計	1,470,439	1,125,289
固定資産合計	5,557,857	2,486,400
資産合計	11,195,476	9,103,883

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金及び工事未払金	1,265,798	1,076,056
短期借入金	2,894,400	-
1年内返済予定の長期借入金	1,541,363	148,793
未払法人税等	9,775	933,578
前受金及び未成工事受入金	948,321	560,862
契約負債	124,724	120,427
仮受金	705,000	-
賞与引当金	50,434	44,112
役員賞与引当金	4,170	1,200
工事損失引当金	-	746
その他	889,499	580,465
流動負債合計	8,433,484	3,466,243
固定負債		
長期借入金	764,117	696,948
契約負債	127,225	124,889
退職給付に係る負債	64,428	68,558
株式給付引当金	36,912	38,104
役員株式給付引当金	148,406	116,515
資産除去債務	191,661	185,790
その他	547,502	529,562
固定負債合計	1,880,253	1,760,369
負債合計	10,313,738	5,226,613
純資産の部		
株主資本		
資本金	671,858	671,858
資本剰余金	730,399	730,399
利益剰余金	△218,712	2,750,584
自己株式	△321,228	△319,824
株主資本合計	862,316	3,833,017
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	19,421	44,252
その他の包括利益累計額合計	19,421	44,252
純資産合計	881,737	3,877,270
負債純資産合計	11,195,476	9,103,883

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	7,481,241	6,723,041
売上原価	5,849,405	4,820,745
売上総利益	1,631,835	1,902,296
販売費及び一般管理費	2,052,606	1,728,081
営業利益又は営業損失(△)	△420,770	174,214
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,797	3,360
販売協力金	2,142	2,147
移転補償金	8,090	8,090
保険解約返戻金	2,856	465
受取和解金	32,000	-
その他	5,769	1,503
営業外収益合計	52,657	15,566
営業外費用		
支払利息	23,564	12,050
支払手数料	12,560	-
契約解除費用	-	10,430
その他	1,088	4,035
営業外費用合計	37,212	26,515
経常利益又は経常損失(△)	△405,325	163,265
特別利益		
固定資産売却益	-	4,224,630
特別利益合計	-	4,224,630
特別損失		
固定資産除却損	-	3,713
特別損失合計	-	3,713
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△405,325	4,384,182
法人税等	10,080	1,414,885
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△415,406	2,969,297
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△415,406	2,969,297

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△415,406	2,969,297
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△3,360	24,831
その他の包括利益合計	△3,360	24,831
四半期包括利益	△418,766	2,994,128
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△418,766	2,994,128

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△405,325	4,384,182
減価償却費	153,665	43,686
貸倒引当金の増減額（△は減少）	69,796	21,722
株式給付引当金の増減額（△は減少）	5,217	1,192
役員株式給付引当金の増減額（△は減少）	15,016	△31,890
賞与引当金の増減額（△は減少）	△14,894	△6,321
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	1,770	△2,970
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△3,956	4,130
受取利息及び受取配当金	△1,797	△3,360
支払利息	23,564	12,050
固定資産売却損益（△は益）	—	△4,220,917
売上債権の増減額（△は増加）	△111,576	△229,241
棚卸資産の増減額（△は増加）	46,928	379,989
仕入債務の増減額（△は減少）	△266,004	△189,896
契約負債の増減額（△は減少）	△15,547	△6,631
前受金及び未成工事受入金の増減額（△は減少）	△101,745	△385,181
その他	△98,956	73,321
小計	△703,846	△156,134
利息及び配当金の受取額	895	3,713
利息の支払額	△23,560	△11,651
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△43,572	6,440
営業活動によるキャッシュ・フロー	△770,083	△157,632
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△47,086	△116,557
有形固定資産の売却による収入	—	5,887,835
無形固定資産の取得による支出	△47,970	△5,752
貸付金の回収による収入	464	476
差入保証金の差入による支出	△119	△38
差入保証金の回収による収入	836	1,412
その他	4,110	5,644
投資活動によるキャッシュ・フロー	△89,765	5,773,019
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	800,000	△2,894,400
長期借入金の返済による支出	△423,128	△1,459,739
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△23,231	△20,165
配当金の支払額	△511	△11
その他	△27	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	353,101	△4,374,316
現金及び現金同等物に係る換算差額	△743	24,276
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△507,491	1,265,348
現金及び現金同等物の期首残高	3,129,140	3,199,386
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,621,649	4,464,734

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P 社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,393,451	2,278,470	2,809,320	7,481,241	—	7,481,241
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,367	1,119,626	144,659	1,265,652	△1,265,652	—
計	2,394,818	3,398,096	2,953,979	8,746,894	△1,265,652	7,481,241
セグメント利益又は 損失 (△)	128,173	△1,279	32,182	159,077	△579,848	△420,770

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去11,140千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△590,988千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II. 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益計 算書計上額 (注) 2
	直販部門	販社部門	B P 社	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,314,338	1,821,005	2,587,698	6,723,041	—	6,723,041
セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,026	1,145,727	75,987	1,239,742	△1,239,742	—
計	2,332,365	2,966,732	2,663,685	7,962,784	△1,239,742	6,723,041
セグメント利益又は 損失 (△)	295,701	347,382	△9,040	634,042	△459,828	174,214

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引の消去49,361千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△509,189千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

(1) 受注及び販売の実績

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

（単位：百万円）

セグメント 区分	品目名称	前連結会 計年度繰 越高	当第2四 半期連結 累計期間 契約	計	当第2四 半期連結 累計期間 販売高	次期繰越高		当第2四 半期連結 累計期間 施工高
						契約残高	うち施工高	
直販部門	ログハウス等 部材キット販売	171	162	333	213	119	—	—
	ログハウス等工 事	4,425	1,413	5,838	2,082	3,755	69	2,040
	その他	0	11	12	97	—	—	—
	(小計)	4,597	1,587	6,184	2,393	3,875	69	2,040
販社部門	ログハウス等 部材キット販売	2,570	1,432	4,003	2,154	1,848	—	—
	その他	—	—	—	124	—	—	—
	(小計)	2,570	1,432	4,003	2,278	1,848	—	—
B P 社	ログハウス等 部材キット販売	15	18	33	29	3	—	—
	ログハウス等工 事	4,956	1,369	6,325	2,774	3,551	27	2,771
	その他	—	—	—	4	—	—	—
	(小計)	4,971	1,387	6,359	2,809	3,554	27	2,771
合計		12,139	4,407	16,546	7,481	9,279	96	4,811

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：百万円）

セグメント 区分	品目名称	前連結会 計年度繰 越高	当第2四 半期連結 累計期間 契約高	計	当第2四 半期連結 累計期間 販売高	次期繰越高		当第2四 半期連結 累計期間 施工高
						契約残高	うち施工高	
直販部門	ログハウス等 部材キット販売	110	140	251	90	160	—	—
	ログハウス等工 事	3,434	1,466	4,901	2,129	2,771	102	2,048
	その他	0	9	10	94	0	—	—
	(小計)	3,546	1,616	5,163	2,314	2,932	102	2,048
販社部門	ログハウス等 部材キット販売	1,546	1,446	2,992	1,656	1,336	—	—
	その他	—	—	—	164	—	—	—
	(小計)	1,546	1,446	2,992	1,821	1,336	—	—
B P 社	ログハウス等 部材キット販売	2	34	36	35	1	—	—
	ログハウス等工 事	3,564	1,819	5,384	2,549	2,834	34	2,551
	その他	—	—	—	2	—	—	—
	(小計)	3,567	1,854	5,421	2,587	2,836	34	2,551
合計		8,659	4,917	13,577	6,723	7,104	137	4,599

(注) 1 前連結会計年度以前に契約したもので、契約の更改等により金額に変更のあるものについては、当期契約高に含めております。

2 次期繰越高のうち施工高については、未成工事支出金により手持工事の施工高を推定したものであります。

3 「ログハウス等工事」の施工高は（売上高＋次期繰越施工高－前期繰越施工高）に一致しております。

4 各部門の「その他」（販促物販売収入等）は、契約高の繰越管理を行っておりませんので、「前期繰越高」「当期契約高」及び「次期繰越高」の欄の記載は行っておりません。

(2) 代表取締役の異動

2024年6月開催予定の定時株主総会決議後

氏名	新 役職名	現 役職名
二木 浩三	代表取締役会長	代表取締役社長
壽松木 康晴	代表取締役社長 営業統轄本部長 兼 LV推進部長	執行役員 営業統轄本部長 兼 LV推進部長

なお、詳細につきましては本日公表の「代表取締役社長の異動（内定）に関するお知らせ」をご覧ください。